

53 番の歌 奉仕に行こう

「教える技術」を磨く

「神の言葉を広めなさい。.....いつも辛抱強く、教える技術を駆使し.....なさい」。 [テモテ第二 4:2](#)

ポイント：教える技術を磨くためにできる3つのことを考えます。

1. 私たちはどんな技術を磨かなければいけませんか。どうしてですか。 ([テモテ第二 4:2](#)) (挿絵も参照。)

イエスは弟子たちにこう言いました。「人々を弟子としなさい。.....私が命令した事柄全てを守るように教えなさい」。 ([マタ 28:19, 20](#) それで、行って、全ての国の人々を弟子としなさい。父と子と聖なる力の名によってバプテスマを施し、20 私が命令した事柄全てを守るように教えなさい。私は体制の終結までいつの日もあなたたちと共にいるのです。) このイエスの言葉から、クリスチャンはみんな人を教えなければいけないということが分かります。もちろん、「正しい態度を持つ人」を引き寄せるのはエホバです。そして、そういう人を見つけられるよう天使たちが助けてくれます。 ([使徒 13:48](#) 異国の人々はこれを聞いて喜び、エホバの言葉を賛美するようになった。そして、永遠の命を得るための正しい態度を持つ人は皆、信者となった。 [ヨハ 6:44](#) 私を遣わした父が引き寄せてくださらない限り、誰も私のもとに来ることはできません。私はその人を終わりの日に復活させます。 [啓 14:6](#) また私は、別の天使が空高く (d*中天を) 飛んでいるのを見た。その天使は、地上に住む人々、すなわち、あらゆる国や民族や言語や種族の人々に伝える、永遠の良い知らせを携えていた。) とはいえ、私たちは何もしなくていいわけではありません。パウロとバルナバのことを考えてみましょう。イコニオムの会堂で伝道していた時、2人が「立派に話をすると、ユダヤ人もギリシャ人も非常に大勢の人が信じるようになります」。 ([使徒 14:1](#) イコニオムで、パウロとバルナバが一緒にユダヤ人の会堂に入って立派に話をすると、ユダヤ人もギリシャ人も非常に大勢の人が信じるようになった。) パウロもバルナバも「教える技術」を磨いていたことが分かります。 ([テモテ第二 4:2](#) 神の言葉を広めなさい。順調な時にも困難な時にも熱心に(*緊急性を意識して)伝道しなさい。いつも辛抱強く、教える技術を駆使して、戒め、忠告し、励まし(*説き勧め)なさい。を読む。) それは現代のクリスチャンにとっても非常に大切です。



イエスや、パウロとバルナバなどイエスの弟子たちから「教える技術」をたくさん学べる。(1節を参照)

2. 教える技術を磨くことなんてできない、と感じてしまうことがあるのはどうしてですか。

2 教えるスキルを磨くことなんてとてもできない、と思う人たちがいます。大した教育を受けていないとか、才能がないと感じているからかもしれません。聖書の中にもそういう気持ちになった人たちが出てきます。(出4:10 モーセはエホバに言った。「お許してください、エホバ。私は流ちょうに話せません。以前もそうで、あなたが私に話されてからもそうです。私は口下手で、舌が回リません」。エレ1:6 しかし、私は言った。「ああ、主権者である主エホバ！私はどのように話したらいいか分かりません。少年(*若者)にすぎないからです。)

伝道で成果が出ないのは教えるのが上手じゃないからだ、とがっかりしてしまう人もいます。もちろん、私たちが良い知らせを伝えても、みんなが聞いてくれるわけではありません。私たちがどれほど上手に教えられるかで結果が決まるわけでもありません。誠実な人を見つけられるようにしてくれるのは、エホバと天使です。それでも、心に響く教え方ができるように、私たちとしてもベストを尽くしたいと思います。では、どうすれば上手に人を教えられるようになるのでしょうか。この記事では3つの点を取り上げます。

①相手を心から思いやる

3. イエスは心に響く教え方ができました。どうしてですか。

3 聖書によると、イエスは「人間の心に何があるかを知って」いました。(ヨハ2:25 人間について誰かに教えてもらう必要はなかったからである。人間の心に何があるかを知っていたのである) 人がどんなことを考え、どうしてそう思っているのかが分かっていたということです。相手が本当に必要としていることが分かっていたので、心に響く教え方ができました。当時の人たちはエホバについてきちんと教えてもらえず、たくさんの伝統や規則に縛られて苦しんでいました。(マタ9:36 群衆を見て、かわいそうに思った。羊飼いのいない羊のように痛めつけられ、放り出されていたからである。;23:4 重い荷をくくって人の肩に載せますが、自分ではそれを指で動かさうともしません。) そういう現状を踏まえた上で、イエスは山上の垂訓を話しました。イエスの話を聞いていた人たちは、自分たちのことをよく分かってくれていると感じてうれしくなりました。

4. 人を心から思いやるにはどんなことが大切ですか。(写真も参照。)

4 伝道で会う人を心から思いやるには、まずその人たちがどんな悩みを抱えているか知ろうとすることが大切です。サタンが支配する世界で暮らしているのだから、誰もが苦しい思いをしています。そのことを忘れないでいれば、相手にもっと寄り添えるようになります。近所の人たちが心を痛めている最近のニュースが何かあるでしょうか。親は学校での子供の安全を心配しているでしょうか。失業する人が増えているでしょうか。聖書の希望を知らずにこの「危機的な時」を生きるというのがどれほど大変なことか、想像してみてください。(テモニ3:1 このことを知っておきなさい。終わりの時代は困難で危機的な時になります。イザ65:13, 14) そのため、主権者である主エホバはこう言う。「私に仕える者たちは食べるが、あなたたちは飢える。私に仕える者たちは飲むが、あなたたちは喉が渇く。私に仕える者たちは喜ぶが、あなたたちは恥をかく。14 祈

に仕える者たちは心が晴れやか(*良い状態)なので喜んで叫ぶが、あなたたちは心が痛むので叫び声を上げ、意気をくじかれて泣きわめく。)



教える相手がどんな悩みを抱えているか想像し、心から思いやる。

(4節を参照)

5. イエスはパリサイ派の人たちとどんなところが違っていましたか。(マタイ 11:28-30)

5 イエスは自分の話を聞いていた人たちのことを深く思いやっていました。相手はイエスの接し方からそのことを感じ取りました。パリサイ派の人たちが一般の人たちを見下し、ばかにしていたのとは大違いです。(マタ 23:13 偽善者である律法学者とパリサイ派の人たち、あなた方には災いがあります！人の前で天の王国を閉ざすからです。自分自身が入らず、入ろうとする人をも入らせません。ヨハ 7:49 律法を知らないあの群衆は神に見放されているのだ) イエスは、人に親切に敬意を込めて接しました。「温和で、謙遜」だったので、心を動かす教え方ができました。

(マタイ 11:28-30 疲れていて(if*労苦し/悪戦苦闘し)、荷を負い切れない人は皆、私の所に来てください。そうすれば、爽やかにしてあげましょう。29 私と共に働いて、私から学んで(*私の弟子(私から学ぶ人)になって)ください。私は温和で、謙遜だからです。あなたたちは爽やかさを感じるでしょう。30 私と共に働くことは心地よく(*私のくびき(てんびん棒)は負いやすく)、私が負わせる荷は軽いのです) 私たちも、人に親切で敬意のこもった接し方をしましょう。

6. 良い知らせを聞いたがらない人や反対する人にも、どうすれば親切で敬意のこもった接し方ができますか。

6 良い知らせを聞いたがらない人や、反対する人もいます。そういう人に会った時、どうしたらいいでしょうか。イエスによると、きつい反応をただ我慢すればいいというわけではありません。「あなたたちを憎む人に善を行い.....あなたたちへの災いを願う人のために祝福を求め、侮辱する人のために祈り.....なさい」と言いました。(ルカ 6:27, 28 しかし、聞いているあなたたちに言います。敵を愛し、あなたたちを憎む人に善を行い続けなさい。28 あなたたちへの災いを願う人のために祝福を求め、侮辱する人のために祈り続けなさい。) 相手の身になって考えると、イエスが言った通りにしやすくなります。もちろん、私たちのことを嫌って反対する人たちもいます。でも、家族のことで悩んでいたり、何か心配事を抱えたりして、聞く気になれないという人もいます。たまたま虫の居所が悪かったのかもしれませんが、いずれにしても、私たちとしては次のことを忘れたくありません。「塩で味付けされた快い言葉を語るように心掛けましょう。そうすれば、誰に対してもどのように答えるべきかが分かります」。(コロ 4:6 塩で味付けされた快い言葉を語るように心掛けましょう。そうすれば、誰に対してもどのように答えるべきかが分かります。) 相手がどうしてそういう態度を取るのか理解するようにすれば、すぐに腹を立てたりしないで、気持ちに寄り添って教えることができます。

②聖書を使って教える

7. イエスはいつも聖書を基に教えることを大事にしていました。どうしてそういえますか。 (ヨハネ 7:14-16)

7 イエスは自分の考えではなく、いつも聖書を基に教えました。聞いていた人たちは聖句の意味がよく分かり、何をすればいいかも理解できました。それで、イエスの教えが心に深く残りました。聖書には、イエスが「律法学者たちのようではなく、権威を授かった人のように教えていた」とあります。みんなが「大変驚くような見事な教え方」でした。(マル 1:22 人々はその教え方に大変驚いた。イエスは、律法学者たちのようではなく、権威を授かった人のように教えていたからである。注釈「律法学者たちのようではなく」の項目 律法学者たちは高名なラビの言葉を権威として引用するのが習慣だったが、イエスはそうするのではなく、エホバの代理、権威を授かった人として語り、神の言葉に基づいて教えていた。(ヨハ 7:16) を参照。) 当時の律法学者たちは有名なラビの言葉をよく引用しましたが、イエスは聖書の言葉を引き合いに出して教えました。イエスは天でエホバのそばにずっといたので、その時に蓄えた知識や知恵をひけらかす教え方もできたはずですが、でも、そんなことはしませんでした。いつも聖書を使い、エホバの考えを人に教えました。(ヨハネ 7:14-16 祭りも半ばを過ぎた時、イエスは神殿に上って行って、教え始めた。15 ユダヤ人たちは非常に驚いて言った。「どうしてこの人は、学校で学んだこともないのにこんなに聖書の知識があるのだろうか」。16 それに対してイエスは言った。「私の教えは私のものではなく、私を遣わした神のものです。」を読む。) そうやって弟子たちみんなに素晴らしい手本を残しました。

8. ペテロはどのようにイエスの教え方に倣いましたか。

8 イエスの弟子たちも教える時に聖書を使いました。例えば、ペテロが西暦 33 年、ペンテコステの日に話した時のことについて考えてみましょう。ペテロは高い教育を受けてはいませんでした。でも、イエスが預言を実現させたことについて聖書からはっきり説明したので、聞いている人たちは心が揺さぶられました。(使徒 2:14-37 しかしペテロが 11 人と一緒に立ち上がり、大声でこう話した。「ユダヤの人たち、そしてエルサレムの住民の皆さん、知っていただきたいことがあります。私が言うことをよく聞いてください。15 この人たちは、あなた方が思うように酔っているわけではありません。今は朝の 9 時なのです。16 それどころか、これは預言者ヨエルを通して言われたことです。17 『神は言う。「終わりの時代に、私は聖なる力をあらゆる人に注ぐ。あなたたちの息子や娘は預言し、若者は幻を見、老人は夢を見る。18 その時代に、私は聖なる力を私の男奴隷と女奴隷にも注ぎ、彼らは預言する。19 私は、上は天に不思議なことを、下は地にしるしを与える。血と火と濃い煙である。20 太陽は闇に、月は血に変わる。エホバの大いなる輝かしい日が来る前に。21 エホバの名を呼ぶ人は皆救われる』」。22 イスラエルの皆さん、この言葉を聞いてください。神は、あなた方が知っている通り、ナザレ人イエスを通してあなた方のただ中で強力な行いと不思議なことと奇跡(d*しるし)を行い、イエスをあなた方にはっきり示しました。23 あなた方は、神の意志と予知の通りに引き渡されたこの方を、不法な人たちによって杭に打ち付けて殺しました。24 しかし神は、この方を死の苦しみから解放して復活させました。この方が死に捕らえられていることなどあり得なかったからです。25 ダビデはこの方についてこう言っ

ています。『私はエホバを絶えず自分の前(*目の前)に置く。神が私の右にいてくださるので、決して動揺することはない。26 そのため、私の心は楽しくなり、私は喜びに満たされて語った。そして希望を持って生きる。27 あなたは私を墓に放っておかず、あなたに尽くす(*を揺るぎなく支持する/から離れない)人の体が腐敗することも許さないからだ。28 あなたは命の道を知らせてくださった。そして、あなたの前で私を喜びで満たしてくださる』。29 皆さん、兄弟たち、父祖ダビデについては、彼が死んで葬られ、その墓が今日までこの都市にあることを自信を持って語ることができます。30 ダビデは預言者で、子孫の1人を彼の王座につかせることを神が誓って約束してくださったので、31 キリストの復活を予見し、キリストが墓に見捨てられず、その体も腐敗しないと語りました。32 神はこのイエスを復活させました。私たちは皆そのことの証人です。33 それで、この方は天に昇って神の右に座り(if*神の右手によって天に昇り)、約束の聖なる力を天の父から受けたので、それを注ぎました。その聖なる力の働きをあなた方は見聞きしているのです。34 ダビデは天に昇りませんでした。こう言っています。『エホバは私の主に言った。「私の右に座っていなさい。35 私があなたの敵たちをあなたの足台として置くまで」』。36 ですから、イスラエル国民は皆、神がその方を主ともキリストともしたことをはっきりと知ってください。そのイエスをあなた方は杭に掛けて処刑したのです。37 人々はこれを聞くと、心を刺され、ペテロやほかの使徒たちに言った。「皆さん、兄弟たち、私たちはどうしたらよいのですか」。

) その後、どうなったでしょうか。次のように書かれています。「**ペテロの言葉を喜んで受け入れた人はバプテスマを受け、その日に約 3000 人が加わった**」。(←[使徒 2:41](#))

9. 聖書を使って教えるべきなのは どうしてですか。

9 **人の心を動かせる最強のツールは聖書**です。(→[ヘブ 4:12](#) **神の言葉は生きていて、力を及ぼし、どんな両刃の剣よりも鋭く、人の外面(c*ギ語プシケウ)と内面(c*ギ語プネウマ)、骨(d*関節)と骨髄を分けるほど深く刺し通して、心の中にある考えや願いを明らかにすることができます。)**それで、**教える時はいつも聖書を使う**ようにしましょう。私たちは**自分の考えではなく、「神の言葉を広め」たい**と思っています。(→[テモ二 4:2](#) **神の言葉を広めなさい。順調な時にも困難な時にも熱心に(*緊急性を意識して)伝道**しなさい。いつも辛抱強く、教える技術を駆使して、戒め、忠告し、励まし(*説き勧め)なさい。) [格言 2 章 6 節](#)→にはこう書かれています。「**エホバご自身が知恵を与えてくださるからである。神の口から知識と識別力が**出る」。聖書を使って教えるなら、**エホバに話してもらっている**ことになります。(→[マラ 2:7](#) **祭司の唇は知識を保つべきであり、民は祭司の口に律法(*指示)を求めるべきである。祭司は、大軍を率いるエホバの使者だからである。)**聖書に書かれていることは**人間の知恵よりはるかに優れている**、ということをみんなに知ってほしいと思います。聖書は**神が書かせた本**なので、**聖書を読むと神に喜ばれるにはどうしたらいいか、どうすれば幸せで満ち足りた生き方ができるかが分かります**。(→[テモ二 3:16, 17](#) **聖書全体は神の聖なる力(*)の導きによって書かれたもので、教え、戒め、矯正し、正しいことに基づいて指導するのに役立ちます。17 それにより、神に仕える人は十分な能力を持つことができ、あらゆる良い活動を行う用意が完全に整います。)**

10. レッスン生が聖書そのものから学べるようにどんなことができますか。

10 聖書レッスンの準備をする時は、どうすればレッスン生が聖書そのものから学べるかを考えるようにしましょう。写真やイラストや動画は理解を助けるものですが、メインの教材はあくまでも聖書です。レッスンの時、ポイントとなる聖句を読んで、何が学べるかレッスン生に考えてもらいます。イラストや動画を使う場合も、そこから聖書のどんな大切な考えが学べるかをしっかり理解できるようにします。そうすればレッスン生は、聖書を勉強している、と実感できます。たくさん聖句を開いたり、いろいろ詳しく説明したりしないといけないわけではありません。時間をかけて一つ一つの聖句をじっくり考えてもらいます。聖句を1回だけではなくもう一度読むのもいいかもしれません。こんなふうになれば、本のレッスンでも、イラストレッスンでも、動画レッスンでもなく、聖書レッスンをしていることになります。(コリ1:28:13 私たちはそうした事柄について話すこともします。その際、人間の知恵によって教えられた言葉ではなく、聖なる力によって教えられた言葉を使います。神に関することを、聖なる力による言葉で(if*聖なる力に導かれる人に)説明する(*と結び合わせる)のです。)

11-12. (ア) レッスン生にどんなふうに辛抱強い接し方ができますか。(使徒 17:1-4) (写真も参照。) (イ) 聖書にあまり触れたことがない人にはどんなことをしてあげられますか。

11 レッスン生が聖書の特定の教えを受け入れにくく感じることもあります。そういう場面で思いついたのは、「神の言葉を広め」る時は「いつも辛抱強く」あるべきだということです。(テモ2:4:2 神の言葉を広めなさい。順調な時にも困難な時にも熱心に(*緊急性を意識して)伝道なさい。いつも辛抱強く、教える技術を駆使して、戒め、忠告し、励まし(*説き勧め)なさい。) 成長のスピードは人によって違います。私たちにとっては基本的なことでも、理解するのに時間がかかる人もいます。テサロニケのユダヤ人たちも、最初は聖書の教えをなかなか理解できませんでした。でも、パウロが繰り返し聖書から教えてくれたので、最後には納得できた人たちもいました。(使徒 17:1-4 一行はアンフィポリスとアポロニアを通ってテサロニケに来た。そこにはユダヤ人の会堂があった。2それで、パウロは自分の習慣通り会堂に入り、3週続けて安息日に聖書から論じ、3キリストが苦しみを受け、そして生き返る必要があったということを説明したり、関連する点を挙げて証明したりして、「私が伝えているこのイエス、この方がキリストです」と言った。4その結果、ある人たちは信者となってパウロとシラスに加わった。神を崇拝する非常に大勢のギリシャ人や、かなりの数の主立った女性たちもそうした。) を読む。)

12 辛抱強く教えるために大切なことがあります。質問して答えにじっくり耳を傾けることです。話し過ぎません。相手の考えや気持ちをくみ取るようにしましょう。エホバがそのことをどう思っているかを分かってもらうために、聖句を一緒に読んで話し合います。あるいはレッスン生の中には、それまでは聖書に触れたことがなくて内容に付いていくのが難しい人もいます。そういう人には印刷版の聖書を見せてあげると、全体像をつかみやすくていいかもしれません。「新世界訳聖書」の最初の「初めて聖書を読む方へ」の質問を見せて、聖書には役立つことがたくさん書かれていると紹介できます。質問 15の「どうすれば幸せになれるか」の所に載っている聖句

を1つか2つ見せることもできます。聖書レッスンの時、聖書をフル活用するなら、いい教え方をしていることになります。



上手に教えるには、話すことより、よく聞くことが大切。

(11-12節を参照)

③エホバが目立つようにする

13. 教える時、誰が目立つようにするといいですか。

13 教える時に目指すのは、聞いている人たちがエホバをよく知り、エホバとの友情を育てていくことです。(ヤコ4:8 神に近づいてください。そうすれば、神は近づいてくださいます。罪人たち、手を清めてください。優柔不断な人たち、心を清めてください。) 教える人の役割は、劇場の照明スタッフの仕事に似ています。上演中、スタッフは自分に光を当てるのではなく、ステージ上の主人公にスポットを当てます。聖書を教えている時も同じように、自分ではなくエホバが目立つようにしましょう。

14. レッスン生がエホバに喜んでもらいたいと思えるように何ができますか。

14 聖書レッスンの時、レッスン生がエホバに喜んでもらいたいという気持ちになれるように助けましょう。(格27:11 わが子よ、賢くあって、私の心を喜ばせよ。私をあざける(*に挑む)者に私が答えるためである。) 教える人の役割は、単にエホバの証人になるにはどんな行動を取るべきかを伝えるだけではありません。エホバへの愛の気持ちからぜひそうしたいと思ってもらうことです。レッスン生が良くない習慣と闘っているなら、こんなふうに尋ねてみてください。「①エホバがそういうことを嫌っているのはどうしてだと思いますか。②あなたにとっては楽しいことなのに、どうしてエホバはやめるようにと言っているんでしょうね。③こうして考えると、あなたを思うエホバの気持ちがどんなふうに伝わってきますか」。そんなふうにして、エホバがどんな方でどんな気持ちでいるかを考えてもらうようにすれば、レッスン生はエホバが優しいお父さんだと思えるようになるはずです。そうやってレッスン生にエホバに喜んでもらいたいという気持ちが育っていきます。

教える技術を磨き続ける

15. 教えるスキルを磨いていくために何ができますか。

15 エホバに祈って、自分の教えるスキルを分析し、改善できる場所を見つけられるようお願いしましょう。(ヨハ 5:14 私たちは神について次の確信を持っています(*私たちは気後れせずに神に語り掛けることができます)。神は、私たちが神の意志に沿って願い求めることは何でも聞いてくださるのです。) 祈りに合わせて努力し、会衆の集会で与えられるトレーニングをフル活用してください。教えるのが上手な兄弟姉妹にレッスンに参加してもらい、気付いたことを言ってもらいましょう。レッスンする時はいつも、自分はよく知っている内容でも、相手はそうではないということを忘れないようにします。いつもレッスン生の目線に立って考えるようにします。学んでいる内容が本当にためになると思えるように助けあげましょう。そうすると、レッスン生はエホバとの友情を育てたいと思うようになり、ますます幸せになっていきます。(詩 1:1-3 何と幸せなのだろう。悪人の意見に従って歩まず、罪人の道に立たず、あざける人と共に座らない人は。2 その人はエホバの律法を喜び、昼も夜も小声で読む(*思い巡らす)。3 水の流れのほとりに植えられた木のようになり、時期が来ると実を結び、その葉は枯れない。行うことは全て成功する。)

16. 教える技術を磨くことが大切なのはなぜですか。

16 エホバについて人に教えるのはとても楽しく、やりがいがあります。将来、新しい世界でもたくさんの人を教える機会があります。これからも良い知らせを伝える時、相手を心から思いやり、聖書を使って教え、エホバが目立つようにしましょう。そうすれば、教える技術をますます磨いていけます。

どんなことができますか

1. 相手を心から思いやるために

・S04 その人たちがどんな悩みを抱えているか知ろうとする。サタンが支配する世界で暮らしているので、誰もが苦しい思いをしている。近所の人たちが心を痛めている最近のニュースや子供の安全や失業の心配などをお持ちかも。聖書の希望を知らずにこの「危機的な時」を生きるというのがどれほど大変なことかを想像する。

・S05 イエスは、人に親切に敬意を込めて接し、温和で、謙遜だったので、心を動かす教え方ができた。そのイエスの態度に倣う。

・S06 良い知らせへのきつい反応に対しても、敵を愛し、善を行い続け、祝福を祈り求め続ける態度を保つ。相手がどうしてそういう態度を取るのか理解するように努め、いつも塩で味付けされた快い言葉を語るように心掛ける。

2. 聖書を使って教えるために

・S09 教える時は自分の考えではなく、人の心を動かせる最強のツールである聖書をいつも使って、エホバに話してもらうようにする。聖書に書かれていることは人間の知恵よりはるかに優れていること、聖書を読むと神に喜ばれるにはどうしたらいいか、どうすれば幸せで満ち足りた生き方ができるかが分かることを伝える。

・S10 聖書レッスンのメインの教材はあくまでも聖書。時間をかけて一つ一つの聖句をじっくり考えてもらう。聖句を1回だけではなくもう一度読むのもいいかも。

・S11-12 「神の言葉を広め」る時は「いつも辛抱強く」あるべき。そのため質問して答えにじっくり耳を傾け、話し過ぎず、相手の考えや気持ちをくみ取るようにする。印刷版の聖書を見せたり、「新世界訳聖書」の最初の「初めて聖書を読む方へ」の質問を考慮することもできる。

3. エホバが目立つようにするために

・S14 レッスン生がエホバに喜んでもらいたいという気持ちになれるよう、エホバへの愛の気持ちからぜひそうしたいと思ってもらえるように助ける。レッスン生が良くない習慣と闘っているなら、エホバがどんな方でどんな気持ちでいるかを考えてもらい、エホバがレッスン生を気遣う優しいお父さんであることを理解できるよう助ける。

65 番の歌 進歩し続けよう

△ (テモ二 4:2) 神の言葉を広めなさい。順調な時にも困難な時にも熱心に*伝道しなさい。いつも辛抱強く、教える技術を駆使して、戒め、忠告し、励まし*なさい。

または、「緊急性を意識して」。

または、「説き勧め」。

△ (テモ二 4:2) 神の言葉を広めなさい。順調な時にも困難な時にも熱心に*伝道しなさい。いつも辛抱強く、教える技術を駆使して、戒め、忠告し、励まし*なさい。

または、「緊急性を意識して」。

または、「説き勧め」。

△ (マタ 28:19, 20) それで、行って、全ての国の人々を弟子としなさい。父と子と聖なる力の名によってバプテスマを施し、20 私が命令した事柄全てを守るように教えなさい。私は体制の終結までいつの日もあなたたちと共にいるのです」。

△ (使徒 13:48) 異国の人々はこれを聞いて喜び、エホバの言葉を賛美するようになった。そして、永遠の命を得るための正しい態度を持つ人は皆、信者となった。